

令和7年度第1回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和7年7月23日（水） 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所 東大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 鈴木道明委員、平野和彦委員、菅原千夏委員、熊谷浩二委員、小岩孝朗委員、館澤敏子委員、大石敦子委員、三浦喜博委員、小島正明委員、佐藤寿幸委員、小野寺美枝子委員、三浦尚博委員、熊谷繁弘委員、千葉喜代一委員、吉田美和子委員、金森勝利委員、小山亜希子委員、白石理恵委員
 - ※欠席者 青柳さつき委員、村上とも子委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、氏家克典教育委員会事務局副参事兼文化財課長、佐々木修路教育委員会事務局副参事兼一関市博物館次長、平石剛まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長・社会教育主事、小野寺和宏いきがづくり課長、佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長・社会教育主事、阿部彰いきがづくり課主査、八重樫理央いきがづくり課主任主事
- 5 議 事
議長及び副議長の選任について
- 6 説 明
 - (1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）
 - (2) 次期一関市教育振興基本計画策定について
- 7 公開、非公開の別 公開
- 8 傍聴者の数 なし
- 9 教育長挨拶

本日はお忙しいところ、一関市社会教育委員会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。ごぞいます。

先ほど、2名の方に新たに委嘱状をお渡しいたしました。皆様におかれましては、一関市の教育分野のみならず、市政全般にわたりご貢献いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

令和7年度も4か月が過ぎようとしており、教育委員会が所管する小中学校では、先

週の18日金曜日から、今週の25日金曜日にかけて、1学期の終業式が予定されております。先日開催された市の校長会議では、最近の大きな課題として、熱中症対策や熊の出没対応について、お願いしたところであります。また、現在一関市では、人口減少への対応が大きな課題となっております。特に、小中学校における児童生徒数の減少が顕著であります。昨年度と比較すると、児童生徒数は約330名減少しており、この人数は、西地区の南小学校や東地区の千厩小学校の児童数を上回る規模で、1年間にこれくらいの児童生徒数が減っている状況です。具体的には、今年の中学校3年生の生徒数が約830人であるのに対し、小学校1年生は約570人です。また、令和6年度に生まれた子どもの数は約360人であり、今後も児童生徒数の減少が見込まれています。このような状況の中で、各学校では行事の内容や、授業について工夫が必要となっております。

今の子ども達が将来社会人となり、一関市や地域を支える人材になっていくときに、現在の社会人や地域の方々よりも少ない人数で地域を支えていくことになるため、今の子ども達は非常に貴重な存在です。そのため、教育委員会では、学校教育に加えて、地域とのつながりや支え合いの価値を学ぶ機会を提供することが重要であり、社会教育の意義というのはこれまで以上に大きいと考えております。社会教育を充実させることで、子ども達の教育環境が充実して、大人になったときには地域の教育力に繋がり、好循環を生み出すことが期待されています。

ただいま子どもたちを例にしましたが、社会教育は子どもから高齢者まで、全ての市民が自らの可能性を広げながら学び続けるための基盤であります。地域に根ざした学びや文化活動、世代間交流などを通して、ともに育ち合う風土づくりこそが持続可能な地域社会の形成に欠かせないものと考えております。そういう点から皆様にいろいろなお力添えを、今後もよろしくお願ひしたいと思っております。

本日の会議では、まずは教育委員会の事務事業に関する点検評価の社会教育関係について、令和6年度の取組を振り返り、皆様からのご意見をいただきたいと思っております。教育委員会が所管する事業及び、いきがづくり課が所管する社会教育を中心とした事業については、これまでに外部の評価委員の皆様へ評価をお願いしまして、検討を重ねております。本日は、皆様に社会教育に関わる部分を検討いただき、教育委員会の定例会においてもご意見を伺う予定です。その後、議会への報告を経て、市民の皆様へ公表することで、評価の客観性が確保できるものと考えております。

続きまして、次期一関市教育振興基本計画の策定についてご説明申し上げます。本計画は、国の教育基本法に基づいて策定されており、現在は、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画期間とする現行の教育振興基本計画に基づいて各種事業を展開しております。この現行計画は令和7年度をもって最終年度を迎えることとなっております。

新たな教育振興基本計画は、今後10年間の計画の策定を予定しているところであり、社会教育委員の皆様の中には、一関市教育振興基本計画検討委員としてご協力いただいている方もいらっしゃいます。これまでの10年間を振り返ると、策定当時には、様々な予測を立てておりましたが、新型コロナウイルスの流行により、予定していた活動が大きく制限されたほか、ICTの発展やAIの登場により、想定以上にデジタル化が進んだ分野もあります。今後の10年間を見据えた計画においても、予測困難なことが次々と起こることが想定されます。だからこそ、本日皆様からご意見をいただき、点検評価及び教育振興基本計画の今年度までの取組の成果を継承発展させるとともに、市民の皆様が予測困難な時代を力強く生き抜く力を育み、多様性を尊重する施策の推進がますます重要になると考えております。学校、家庭、地域が一体となり、市民の皆様、地域の皆様の力を最大限に生かした、持続可能な人づくり、まちづくりの実現を目指してまいりたいと考えているところであります。

本日、委員の皆様には幅広い視点から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

10 議 事

互選の結果、千葉喜代一委員が議長に、白石理恵委員が副議長に選出された。

11 説 明

(1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 資料No.1の15ページに関連して、私は、地域に根付いた文化がだんだん伝承されなくなっていることを心配している。その背景には、かつて家庭を守りながら文化の細かな部分を受け継いできた女性たちが、社会で活躍するようになってきて、伝統文化の継承のための時間や関心が少なくなっている状況にあるのではないかと感じている。

私は、第2次世界大戦のころ幼稚園や小学校を経験した世代である。ある団体において、戦争体験についての話をする機会があり、幼少期に感じたことを率直に述べた。そうした記憶や話を伝える人が少なくなっているのではないかと思う。

この地域に根付く伝統芸能には、地域の暮らしや人々の営みが反映されている。どのような生活背景のもとで、どのように受け継がれてきたのかを伝えていくことが大切だと思う。若い時代に都会へ行って活躍した後に、Uターンで地元に戻ってきたときに、自分の故郷がすごいところだったなど実感できることが重要であると思う。伝統芸能の中には、人々の暮らしの意味や、昔の人た

ちが苦勞したことが染み込んでいると感じる。こうした文化の継承には、学校教育や地域社会の社会教育の力が重要である。このような思いを伝えられればと思って発言した次第である。

委員 今年も本会議に参加させていただき、一関市における多岐にわたる社会教育について、大変素晴らしい実績だと感じている。

資料15ページの事務事業No.37の民俗芸能伝承調査研究事業についてであるが、これは郷土芸能にも関わる内容であるのか。また、先ほど、市内の小中学校における郷土芸能の取組をまとめた一関市民俗芸能調査報告書を刊行したとの説明があった。大東高等学校の鹿踊部は、大原商業高等学校からの伝統を受け継ぎ、来年で大東高等学校の創立100周年を迎えるということで、非常に素晴らしい活動を行っている。市内の高等学校でも、太鼓や郷土芸能に取り組んでいるため、こうした高等学校の活動もこの本事業の対象に加えていただきたいと考え、発言した。

事務局 ご意見ありがとうございます。郷土芸能や民俗芸能といった呼び方にはさまざまあるが、いずれも同じものであり、特に故郷という意味合いを強調した呼び方が郷土芸能である。

今回、小中学校の統合が一段落したことを受け、それぞれの学校における民俗芸能の取組を改めて振り返り、詳しい方々から話を伺いながら記録として残しておく必要があると考え、報告書を刊行した。

大東高等学校の鹿踊部については、非常に素晴らしい取組であると認識している。今後、いただいたご意見を踏まえて、こうした活動についても報告書に取りまとめることを考えていく。

委員 資料6ページの学校支援活動事業について、子どもたちと地域の方々が接する機会があることは非常に意義深く、素晴らしい事業であると感じている。主な活動の中に、大東地域のコーディネーターの人数が1人と記載されており、大東地域には5校の学校があるが、1人で対応している点が気になった。評価に記載された事業の方向性を拡充していくのであれば、人員体制の面も含めて検討いただきたい。

事務局 学校支援活動事業を導入するにあたっての大きな課題は、地域コーディネーターになっていただける人材の確保である。学校側としても事業の導入を望んでいるが、地域コーディネーターの適任者がなかなか見つからないという状況がある。大東地域には現在1人のコーディネーターがいるが、それ以外にも人材を探しているものの、適任者の確保が難しい状況である。今後も支所と連携

を図りながら、地域コーディネーターの確保に努め、事業のさらなる充実を目指していく。

委員 骨寺村についてであるが、2年ほど前に、外国の方がもっと骨寺村について詳しく学びたいと話していたことがあった。その際に、骨寺村と平泉文化との関係性について、より積極的にアピールしても良いのではないかと感じた。もし、そうした取組の事例や情報があれば、教えていただきたい。

事務局 骨寺村の価値と魅力のアピールについてであるが、現在、平泉町に平泉世界遺産ガイダンスセンターが設置されており、そこでは世界遺産に登録されている5つの資産と、関連する5つの資産が紹介されている。このセンターをゲートウェイとして、平泉の歴史や文化への理解を深める流れとなっているため、当該センターをご紹介いただくと幸いである。

また、資料16ページの事務事業No.39に記載されている平泉遺産の文化観光の取組においても、平泉世界遺産ガイダンスセンターを起点とし、平泉町、奥州市、一関市の関連資産を学びながら観光していただく取組を進めようとしている。その中で、骨寺村荘園交流館なども、文化観光の拠点施設の一つに位置付けられており、今後はさまざまな周遊事業の企画が予定されているものと認識している。こうした取組の中で、骨寺村の魅力は広く周知が図られていくと考えている。

委員 世界遺産の登録推進に関して、海外の方々からも登録した方が良いという声が出ると力強いと思っている。

(2) 次期一関市教育振興基本計画策定について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 市の予算の教育費がいくらで、そのうちの社会教育費がいくらなのかを教えてください。

事務局 令和7年度予算においては、教育費全体が約46億5000万円で、そのうちの社会教育費は約8億7000万円である。割合にすると18.7%となっている。

12 担当 まちづくり推進部いきがづくり課